

2014 2/11

No.1964

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



二宮町の吾妻山公園で、菜の花が見ごろを迎えている。頂上（標高約136_{メートル}）から西側の斜面にかけて約4万5千株の黄色いじゅうたんが広がり、晴れていれば丹沢山塊や富士山、相模湾などを見渡せる。見ごろは2月末ごろまで。



contents

視点・点描	3
書き初めに躍進の予感	
国 際	4
遠のく「アサド退陣論」 会議の裏でイスラム過激派対策	
経 済	6
地銀7割が中小企業貸し出し増 ペースは鈍く、地区別で温度差	
企業最前線	8
ロボットの中国生産加速 現地の人件費高騰で市場拡大	
くらし2014	10
医療費がかさんだら確定申告	
広告珍談	12
新聞広告が始まった③ 外国人が日本語の広告	
NNAアジア経済リポート	13
会員のページ	14
事務局からのお知らせ	
会員のページ	15
新入会員です 会員の動き	

事務局だより

◇2月はミャンマーツアー実施により休会

◇横浜定例講演会

2014年3月4日（火）

富士ゼロックス神奈川株式会社と共催

ホテル、ニューグランド「レインボーボールルーム」

▽基調講演 15時～16時。

講師は日本銀行横浜支店長の竹澤 秀樹氏、演題は「最近の金融経済情勢について」

▽特別講演 16時10分～17時40分。講師は東海大学副学長、神奈川県体育協会会長の山下 泰裕氏、演題は「人を育てる、人に育てられるー柔道を通して学んだこれからの生き方ー」

▽懇親会「神奈川情報交流会」
17時50分～19時30分、「ペリー来航の間」

視点 点描



書き初めに躍進の予感

横浜DeNAベイスターズに躍進の予感を抱いている。

プロ野球のキャンプが始まり、横浜も沖縄・宜野湾で、球団初のクライマックスシリーズ進出を目指すトレーニングしている。

課題の投手陣は大きく改善。米大リーグでプレーした高橋（登録名・尚成）、阪神から国内FA移籍した久保に、元メジャーのモスコソを補強したほか、新人の柿

田（日本生命）三上（JX-EN E.O.S）らも即戦力と言われる。

昨年の先発陣を支えた三浦、藤井の両ベテランも健在で、2年目の三嶋、井納もいる充実ぶりだ。

だが、私の予感の源は戦力面よりも球団の一体感にある。

球団仕事始めの1月6日は、ちょうど中畑監督の60歳の誕生日だった。ノリのいい球団は、似顔絵と「キヨシ還暦！」の文字が入った真つ

赤なTシャツを用意した。

池田社長、高田ゼネラルマネジャーをはじめ、約130人の職員に報道陣までもが着用してサプライズを演出。赤く染まった会場に入った燃える男は「キヨシ、感激」と言って喜んだ。

そして恒例の書き初めで「心」と大書。指揮官は「みんなの気持ちの一つになればすごい力になる。チームで心をつにすること大切」という意味を込めた。

昨年は「勝」だった。その字を



「心」の書き初めを手にとる中畑監督（右）と池田社長（中央）。奥は高田ゼネラルマネジャー

ご覧になった方も多だろうが、あまりバランス良く映らなかった。へんの「月」が、「券」に似たつくり比べて小さく、勝利の味方の「ツキ」よりも、入場「券」販売を重視している印象があった。ふたを開けてみると、確かに観

客動員数は前年比22%増、チケット売り上げも29%増と好調な営業成績だった。勝負の方でも、5位とはいえ6年連続最下位にはならなかったのだから、書き初めの文字のバランスでよかったわけだ。

外国人、新戦力を除き、昨年契約更改した55人の総年俸は12億7千万円。ヤンキースと超大型契約を結んだ田中1人の半年分にしかならないが、心をつにすれば、書き初めに込めた思いが実る秋が来ると信じている。

（神奈川新聞社運動部長

岡部 伸康）

外国人が日本語の広告

1865（慶応元）年5月、新

聞紙上にかがやく、日本最初の日

本語による新聞《海外新聞》が発
刊された。

発行したのは岸田吟香（196

2号参照）とジョセフ・ヒコ。ヒ

コは1837年、播磨に生まれた

浜田彦蔵。50（嘉永3）年、遠州

灘で遭難。アメリカ船に救助され、

そのまま渡米。勉強して帰化。59

（安政6）年、開港と同時に帰国。

横浜に設立されたアメリカ領事館

に通訳として着任。日米交渉に活

躍した。72年、大蔵省に入り、渋

沢栄一のもとで国立銀行条例を編

纂^{さん}。のち横浜で貿易商を営んだ。

《海外新聞》は、ヒコが執筆し

た連載「アメリカ史略」を掲載す

るなど、外国の情報を知りたい先

進的な日本人を読者にした。ヒコ

は7年におよぶアメリカでの市民

生活で、広

告の必要性

を認識して

いたにちが

いない。創

刊号に広告

も掲載する

と予告した。

発刊の翌66

（慶応2）年

4月17日、

広告が掲載

された。日

本語の新聞

に、日本語の

広告が載った、記念

すべき日である。といつても広告

主は日本人ではなく、居留地に住

む外国人。図をどうぞ。広告の用

語はなく「引札」といった。本紙

も売る」、帆船・蒸気船・蒸気機

2年、海外新聞に掲載

ろ。右から内容を見よう。

「葉種類

を求むと要

する諸君子

ハ、運上所

の協なる第

二十五番を

問給へ。若

し持合なき

品詔を得ハ

早速本国よ

り取りよせ

可呈候 ア

レン謹呈」

諸君子は

お客、運上所は税関。その下は医

師バーダルの広告、左はアメリカ

の商社

「日本の品も買入れ又舶来の品

に「横浜在留の異人より出す引札

械など「軍用の諸器と日用の器

物を詔たき諸君子」はご来店あ

れと、ウォルシュ兄弟が設立した

貿易商社。

左は1ヵ月後、ケイにかこまれ

て広告らしくなつた。その右は歯

医者^{イサナ}の広告でおもしろい。

「入歯を成さんと欲する御方は」

「所持の細工歯御覧」のうえご用

命ください。「尋常の骨或ハ象牙

蝨石にて造りしに非ず。せともの

に類せし金にて造りし故」、長持

ちするし、「つやなど天然の歯に

異ならず」と、入歯の広告である。

さらに左は「蒸気船帆前船海陸

之大小砲玉薬類」取りそろえてと

アピール。混乱する幕末の日本で

荒稼ぎしようとする魂胆が丸見

え。横浜は不良外国人の吹き溜ま

りでもあった。

（美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住）

